



北海道札幌

中島公園

八田三郎



兵部軍機處印

某年某月某日

大阪朝日新聞社用箋

我は此に精ひんし一切の仕事とす可なりや、學術
 研究でも地倉事案も其の理を解きゆりたく朝日を踰越
 すとす。出来さうし一切の事項も直に後帯もソツくり
 かりなう、馳せ考すもつ多々なりて、偏し先づ三言が
 こころ大島折り結構的に存続せざるべからず、三日を念
 ずれば一生を小すれ我もも新事案なくも又つたもなり
 唯、瑞雪の盛也早先の口が燦つるよし憂し、偏し此
 本するたは使わぬを、まに五十、幾位り存続者、
 此れが(終日なりて)近衛公も此を計るるの心あり、偏し
 我々のよびやれし、原田の方見はあしむり一電は下る
 る也、林にもあはれしなり、何れもさつるなり(云々)
 二、増あるも略々、多事御よりなりて(大島折は増は

大正 年 月 日

